

2022 年度 指定校推薦 小論文問題

次の文章を読み、問いに答えなさい。

「わかる」ということについて、少し考えてみます。一口に「わかる」と言っても、その中身は色々です。ここでは「共通理解」と「強制理解」という分け方で考えてみましょう。基本的に言語は「共通理解」、つまり世間の誰もがわかるための共通の手段です。この言語のなかから、さらに最も共通な了解事項を抜き出してくると「論理」になったり、「論理哲学」になったり、さらに「数学」となったりします。数学というのは、証明によって、いやが応でも「これが正しい」と認めさせられる論理です。もはやこれは「強制理解」という領域になります。数学的に証明をされてしまうと、とにかく結論を認めざるを得ないわけです。

人間の脳というのは、出来るだけ多くの人に共通の了解事項を広げていく方向性をもって、いわゆる進歩を続けてきました。マスメディアの発達というのは、まさに「共通理解」の広がりそのものということになります。マスメディアによって、かつては考えられなかったくらい多くの人間が同じシーンを見る、という事態が発生してきた。言語だけではなく、マスメディアのおかげで、多くの人がある事象について、共通の情報を受けようになったのです。共通理解が、多くの人とわかり合えるための手段だということを考えれば、それが発展していくことは自然な流れでしょう。

ところが、どういうわけか、そうした流れに異を唱える動きがあります。「個性」の尊重云々というのがその代表です。このところとみに、「個性」とか「自己」とか「独創性」とかを重宝する物言いが増えてきた。

今の若い人を見ていて、つくづく可哀想だなと思うのは、がんじがらめの「共通理解」を求められつつも、意味不明の「個性」を求められるという矛盾した境遇にあるところです。会社でもどこでも組織に入れば徹底的に「共通理解」を求められるにもかかわらず、口では「個性を發揮しろ」と言われる。要するに「求められる個性」を發揮しろという矛盾した要求が出されているのです。組織が期待するパターンの「個性」しか必要無いというのは随分おかしな話です。

皮肉なことに、この矛盾した要求の結果として派生してきたのが、「マニュアル人間」の類です。要は、「私は、個性なんかを主張するつもりはございませんが、マニュアルさえいただければ、それに応じて何でもやって見せます」という人種。これは一見、謙虚に見えて、実は随分傲岸不遜な態度なのです。「自分は本当は他人と違うのですが、あなたがマニュアル＝一般的なルールをくれれば、いかなるものであろうとも、それを私はこなしてみせましょう」という態度なのですから。こういう人は、ご自分のことを随分全人的な人間、すなわちあらゆる面でバランスがとれていて、何にでも対応できる人間だと思っているのではないのでしょうか。私自身は、マニュアル通りになんかとても出来ないし、読む気もしない。最初からそんな気は無い。しかし、具体的に仕事をやれば、どういう手順がいいいのかなんてことは、わかってくるものなのです。(中略)

今、問題にしている「個性」を私が持っていたらどうなるか。つまり、私が極めて個人的な意見の持ち主で、それを人に伝えようとしている場合を考えてみる。その場合、自分にとってのみ最も適切な言葉遣いで人にしゃべりかけると、多分、誰も聞いてないということになる。最も適切だと思う言葉が、今なら自然科学について語る場合、英語になる。そうすると、私が自然科学の話をするのは、英語でしゃべるのが当たり前になるはずでしょう。

繰り返しますが、本来、意識というのは共通性を徹底的に追求するものなのです。その共通性を徹底的に確保するために、言語の論理と文化、伝統がある。人間の脳の特に意識的な部分というのは、個人間の差異を無視して、同じにしよう、同じにしようとする性質を持っている。だから、言語から抽出された論理は、圧倒的な説得性を持つ。論理に反することはできない。

では、脳が徹底して共通性を追求していくものだとしたら、本来の「個性」というのはどこにあるか。それは、初めから私にも皆さんにもあるものなのです。なぜなら、私の皮膚を切り取ってあなたに植えたって絶対にくっつきません。親の皮膚をもらって子供に植えたって駄目です。無理やりやるとすれば、免疫抑制剤を徹底的に使うなんてことをしないと成功しません。皮膚ひとつとってもこんな具合です。すなわち、「個性」なんていうのは初めから与えられているものであって、それ以上のものでもなければ、それ以下のものでもない。

産みの親と違って、それだけ違うのに、何で安心して、違う人間に決まっていると言えないのか。逆に意識の世界というのは、互いに通じることを中心としている。もともと人間、通じないものを持っているに違いない。だから、アラブとイスラムの考えはわかるけれど、そういう「個」というものを表に出した文化というのは、必ず争いごとが起きている。こう考えていけば、若い人への教育現場において、おまえの個性を伸ばせなんて馬鹿なことは言わない方がいい。それよりも親の気持ちがわかるか、友達の気持ちがわかるか、ホームレスの気持ちがわかるかというふうに話を持っていくほうが、余程まともな教育じゃないか。

そこが今の教育は逆立ちしていると思っています。だから、どこが個性なんだ、と私はいつも言う。

出典：養老孟司『バカの壁』新潮社、2003年。出題のため一部改変。

問1. 本文を要約しなさい。(300字以内)

問2. 個性的であることについて思うところを述べなさい。(500字以内)

以上